

第 8 期東郷町高齢者福祉計画 現行計画の取組の振り返り（概要）

令和 5 年 3 月

1. 評価結果（概要）

現行計画を振り返り、計画に対して、どの程度進めることが出来たかを取組ごとに評価したところ、87 ある事業のうち、「できた」が 32、「概ねできた」が 51、「あまりできなかった」が 4、「できなかった」が 0 となりました。

	できた	概ねできた	あまりできなかった	できなかった	総計
1 健康づくりと介護予防の推進 ＜予防＞	6	13	3	0	22
2 高齢者が安心して地域で暮らす体制づくり＜生活支援＞	16	15	1	0	32
3 介護を受けながら安心して暮らす体制づくり＜医療・介護＞	10	11	0	0	21
重点 1 地域包括ケアシステムの 深化と推進	0	6	0	0	6
重点 2 認知症への正しい理解と 早期対応	0	6	0	0	6
総計	32	51	4	0	87

2. 基本目標に基づく取組の振り返り

1 健康づくりと介護予防の推進＜予防＞

(1) 健康づくり・疾病予防の推進

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・メタボリックシンドロームの予防の観点からフレイル予防の観点にシフトしていく必要性を学んだ。また、低栄養予防の対策として、料理教室を実施し、調理の手技を身につけ、自立した食生活を促した。☆
- ・令和3年10月より白鳥コミュニティセンターにて「藤田医科大学連携まちかど保健室」を開催（TOGO まちかど運動教室と同時開催）し、気軽に相談できる体制づくりを進めた。☆

【あまりできなかったこと】

- ・新型コロナウイルスの感染症の影響により、がん検診の受診控えがみられたほか、健康講座等の生活習慣病に係る周知啓発の実施が困難だった。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・通いの場に介護予防・健康づくりの視点を取り入れると同時に、医療専門職に相談できる環境の充実として、「藤田医科大学連携まちかど保健室」は、今後開催箇所を増やしたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で開催を縮小している地区の健康教室を再開し、生活習慣病に関する知識の普及を図りたい。
- ・がん検診等の受診勧奨として、広報への特集記事の掲載、動画配信のほか、自己負担額の助成について検討したい。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
低栄養予防対策事業の実施(人) ※令和3年度から実施	—	—	41	継続
藤田医科大学連携事業の実施(人) ※令和3年度から実施	—	—	28	継続

目標	令和元年度	令和4年度	目標
現在のあなたの健康状態はいかがですか(一般高齢者調査)※「とてもよい・まあ良いの合計」	79.5%		増加

(2) 健康づくり・疾病予防の推進

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・高齢者社会参加ポイント制度事業を推進し、令和3年度には申請者数が746人に達した。☆
- ・高齢者ボランティアポイント制度事業を推進し、令和3年度は登録者が122人、参加事業者28事業者と、令和2年度よりも増加した。
- ・住民主体での通いの場の立上げ及び運営を支援した（思い出の語り場づくりへの支援）。

【あまりできなかったこと】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者スポーツ大会を中止した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・思い出の語り場づくりへの支援は、さらに広い地域で通いの場が増えるように助成内容を検討していく。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
思い出の語り場づくりへの延べ参加者数(人)	5,151	3,258	5,227	5,240
高齢者社会参加ポイント制度のポイント交換人数(人)	714	705	746	830

目標	令和元年度	令和4年度	目標
高齢者社会参加ポイントについて知っていますか(一般高齢者調査)	39.9%		増加
あなたの趣味や特技を活かせる場が地域の中にありますか(一般高齢者調査)	25.3%		増加

(3) 介護予防・日常生活総合事業の推進

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・住民の身近な地域での通いの場等の活動の中で出前講座を開催し、全ての高齢者が介護予防に取り組めるよう、体力測定を行ったほか、介護予防の必要性を伝えた。☆
- ・保健事業と介護予防の一体的実施として、栄養パトロール事業、理学療法士による運動教室、令和3年からの企画調整担当の専任保健師の配置、保健医療課・健康推進課・高齢者支援課との一体化会議の開催を行った。☆
- ・地区のコミュニティセンター等の用意が可能で、かつ、講座の実施希望があった地域6地区（白鳥地区、北山台地区、白土地区、傍示本地区、和合ヶ丘地区、春木台地区）で、健康・介護予防講座を開催した（体操、低栄養予防、お口の健康についての講話含む）。また、教室終了後も参加者が通い続けられるようTOGOまちかど運動教室やサロン等の立ち上げを行った。☆
- ・高齢者の誰もが参加できる運動や介護予防に関する内容を取り入れた介護予防教室を東郷町内の民間企業等の空き時間や空き部屋を活用し開催した。☆
- ・令和元年度制作の東郷町オリジナル介護予防DVDの普及と、地域の通いの場等でDVDを活用した運動を実施するために積極的に声掛け等をするための普及員（シニアリーダー）を養成した。また、普及員（シニアリーダー）へのフォローアップ研修や、実際に運動指導やフレイル予防に関する知識の普及啓発ができるアドバンスシニアリーダーを併せて養成した。☆

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・保健事業と介護予防の一体的実施について、地域ごとの課題を抽出し、ニーズに合った展開ができるように検討する。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
介護予防教室の延参加者数(人)	3,576	2,081	5,095	4,150
地域リハビリテーション活動支援事業開催回数 (回)	5	7	1	10

目標	令和元 年度	令和4 年度	目標
住民主体の健康づくり活動等の参加者としての 参加意向(一般高齢者調査)	56.6%		増加

2 高齢者が安心して地域で暮らす体制づくり<生活支援>

- (1) 介護予防・日常生活支援総合事業の推進【再掲】→基本目標1・2の関係箇所参照
(2) 在宅生活を支える生活支援サービスの充実

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・介護保険サービスでは賄えない、ちょっとした困りごとに対応するため、民間事業者から情報を収集し、介護保険外サービスを含めてまとめた冊子「とうごうくらしの応援ガイドブック」が令和3年3月に完成し、地域包括支援センター、ケアマネジャー、民生委員を始め、ひとり暮らし登録の高齢者に配布した。☆
- ・巡回バス（じゅんかい君）について、令和3年4月1日から、ららぽーと愛知東郷に近接するバスターミナルを発着点とする再編を実施した。
- ・デマンドタクシーの導入に向けた実証実験を令和2年度・3年度で実施した（令和4年度に導入）。
- ・高齢者の生活を支える生活援助員派遣事業、緊急通報システム事業、高齢者タクシー料金助成事業、食の自立支援事業を実施した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・食の自立支援事業については、最近の物価高騰を受けて、事業者に対する補助額の見なしの検討が必要。また、低栄養予防対策としての方向性も含めて検討したい。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
高齢者タクシー料金助成人数(人)	199	220	252	260

(3) 支え合いの体制づくり

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・地域支え合い協議体の運営について、公益財団法人さわやか福祉財団の長瀬純治氏を助言者として、協議体の見直しを行った。研修を受講し、協議体の運営について見直しを行った結果、第1層協議体としては休止した。また、第2層協議体の立上げに向けて、町、地域包括支援センター、社会福祉協議体で協議体をコアメンバーとして、協議体について共通認識を持つための勉強会を開催、住民向け「地域支え合い勉強会～協議体とは何か～」を開催し、勉強会終了後、興味を持った参加者には、第2層協議体の構成員として参加してもらい、第2層のプレ協議体を立ち上げた。
- ・第2層地域支え合いコーディネーターを2名設置し、地域の情報収集や地域づくりの支援を行った（サロンの情報を集めた「通いの場」の冊子作成等）

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・各圏域（北部及び南部）での第2層協議体を継続する。そのため、月1回の定期的な協議体を開催する。また、各々の協議体を進めていく上での行き詰まりや悩みの共有や、進捗状況の報告の場として、両圏域の協議体が集まり「協議体交流会」を開催する。
- ・第1層協議体の再始動に向けて内容を検討する。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
地域支え合いコーディネーター活動数(件) ※年度ごとに新規に立ち上げに関わる活動数	—	—	—	2

目標	令和元 年度	令和4 年度	目標
住民主体の健康づくり活動等の企画・運営としての参加意向(一般高齢者調査)	34.4%		増加

(4) 見守りの体制づくり

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・高齢者のひとり歩きが発生した場合に認知症見守りネットワークを活用するための情報配信システム登録者を増やすために広報紙等にネットワーク登録のためのQRコードを掲載。また、ひとり歩き高齢者搜索模擬訓練を実施し、その際に併せてひとり歩き高齢者見守りネットワークについて説明した。
- ・ひとり暮らし高齢者台帳に登録することで、地区の民生委員が定期的に見守り活動を行った。また、登録内容は緊急時の連絡に活用した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・位置情報提供サービス導入の助成の際に、ひとり歩き高齢者見守りネットワーク事業の事前登録を促すなど、ひとり歩き高齢者見守り事業を必要としている人の登録を増やす。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
ひとり歩き高齢者見守りネットワークへの登録者数(人)	250	262	288	278
一人暮らし高齢者登録への登録者数(人)	441	—	—	453

(5) 担い手の養成

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・生活支援サポーター養成講座を開催し、令和3年度には8名登録。講座実施後には介護事業所への登録を案内した。☆
- ・地域サポーターが平常時の見守り活動や災害時の安否確認等が迅速に行えるよう、社会福祉協議会と連携して支援した。
- ・認知症高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるように認知症の理解を深め、応援者を増やすため認知症サポーター養成講座を開催した。令和3年度末時点でサポーター数の延べ人数は3,914人となっている。
- ・介護予防サポーターを養成する研修（全10回開催）を開催した。また、東郷町が主催する元気アップ教室、各地区の運動教室等で高齢者の見守りや受付等ボランティアをする活動先のコーディネートにより活動を支援した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・認知症サポーター養成講座を各地区の地域住民、活動団体や企業に向けて積極的及び定期的に開催できるよう認知症地域支援推進員等と実施方法及び内容について検討していく。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
生活支援サポーター登録者数(人)	14	14	22	26

(6) 災害・感染症への備え

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・感染症予防に関する情報の周知として、感染症に関するチラシの作成と地区回覧（安全安心課）、広報や電話相談の実施（健康推進課）、老人クラブ、講座、教室等での情報発信や国・県からの情報を随時事業所へ情報発信した（高齢者支援課）。
- ・防災体制の充実に関して、老人クラブへ防災講話を実施し（安全安心課）、災害時における高齢者支援について各部署と情報共有（高齢者支援課）した。
- ・避難行動要支援者登録をした高齢者に、緊急連絡先等が記載できる救急安心カードを配布した。

【あまりできなかったこと】

- ・災害時の避難場所の確保について、町内の介護老人福祉施設、介護老人保健施設については全施設と協定を締結済みだが、協定締結を行っていない事業者（有料老人ホーム等）がある。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・協定締結を行っていない事業者と災害時の避難場所の確保に関する協定の締結を依頼する。
- ・互助による地域での助け合いの仕組みづくりや、関係課と連携して、要配慮者に配慮した災害時支援体制を整備する。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
避難行動要支援者登録制度登録者数(人)	1,883	1,806	1,903	1,960
感染症予防に関する情報の周知啓発	実施	実施	実施	継続

(7) 生活情報の提供

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・講座、教室等で定期的に地域包括支援センターの周知や高齢者支援施策等についての啓発を実施した。（文化産業まつりは、令和3年度中止）
- ・愛知警察署と協力し、交通安全教室を実施して、交通事故、運転免許自主返納の周知啓発を行った。（安全安心課）
- ・広報でかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の周知をした。（健康推進課）

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き、高齢者施策や交通安全、成年後見制度、消費者保護、高齢者虐待防止に関する講座・教室・イベント等を行っていく。
- ・高齢者のデジタルバイト対策の施策を行う。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
講座・教室・イベント等での周知啓発	実施	実施	実施	継続

(8) 高齢者の権利擁護

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・成年後見制度について、尾張東部権利擁護支援センターと連携し、月1回の巡回相談実施の協力と周知を行った。
- ・消費者トラブルの出前講座を実施し、周知を行った。（地域協働課）
- ・高齢者虐待防止の対応を行った。
- ・5市町と協定締結し、消費生活相談体制の強化に努めた。（地域協働課）

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き高齢者が安心して暮らせるよう各取組を継続する。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
成年後見制度の周知・啓発	実施	実施	実施	継続

3 介護を受けながら安心して暮らす体制づくり<医療・介護>

(1) 要介護者の在宅生活を支えるサービス

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・理髪サービス事業、外出サービス事業を実施した。
- ・介護用品費用助成事業については、令和3年8月より利便性向上のためチケット（金券）方式に変更した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き、利用しやすい環境を整えながら、事業を推進する。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
理髪サービス事業延利用者数(人)	46	35	29	50
介護用品購入費助成受給者数(人)	341	347	341	411

(2) 介護家族支援

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・認知症家族支援講座の実施。
- ・家族介護者リフレッシュ事業では、令和3年度に男性介護者の集いを同時開催し、男性も参加しやすい雰囲気づくりを行った。
- ・介護休業制度の啓発では、チラシやパンフの設置のほか、地域包括支援センターを通して介護者に対して情報提供を行った。
- ・認知症対応型通所サービスを提供した（町内1事業所）。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き、事業を推進する。
- ・認知症対応型通所サービスは、1事業所では町内ニーズに対して定員数が不足しているため、新規開設に向けて公募等を検討する。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
認知症家族支援講座の参加者数(人)	35	28	34	39
家族介護者リフレッシュ事業参加者数(人)	16	中止	10	20

目標	令和元年度	令和4年度	目標
1年以内に介護を理由に仕事を辞めた主な介護者の割合(要支援者等調査)	8.5%		減少

(3) 在宅医療・介護連携の推進

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・住民向け啓発活動として医療介護フェアを実施した。☆
- ・町・豊明市・藤田医科大学と共同で「豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし」を運営した。主に医療介護の相談支援と、医療福祉介護関係者の人材育成及び連携強化を目的とした研修会を開催した。また、介護支援専門員、地域包括支援センター職員、医療介護関係職種等に対し、専門技術の移転や視点の共有を目的とした研修会を開催した。
- ・電子@連絡帳「レガッタネットとうごう」を運用し、医療介護専門職に連絡帳の積極的な活用を啓発したことで登録患者数が増加した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・住民に対して在宅医療介護について普及啓発を行うため、地域の医療機関、介護サービス、専門職等の社会資源を紹介する在宅医療介護に関する冊子の作成に向けて内容を検討する。
- ・医療介護関係者のさらなる連携に向けた検討を行う。
- ・電子@連絡帳の効果的な活用方法の検討と、ビデオ会議システムの導入を検討する。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
電子@連絡帳の利用者数(人)	130	130	138	170
電子@連絡帳の登録患者数(人)	70	80	90	150

(4) 専門職の人材育成

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・多職種が集い、実際の支援ケースをもとに自立のための支援について様々な視点や気づきを得られるよう、グループワークの手法を取り入れて工夫して多職種カンファレンスを開催。また、コロナ禍でも開催できるように来場とWebのハイブリットで実施し、参加しやすい体制を整えた。
- ・事業者への研修会の実施（尾三地区連携）やケアマネジャーへの聞き取りとアドバイスをを行った。
- ・県が実施する「あいち介護サポーターバンク」について広報・HPに掲載し、周知啓発を行った。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・介護人材の確保に向けて、県の事業の周知啓発に努めるとともに、近隣市と共同で実施する企業展等を周知する。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
多職種ミーティングの参加人数(人)	102	143	154	106
多職種カンファレンスの参加人数(人)	140	133	202	168

目標	令和元年度	令和4年度	目標
職員の不足はありますか(不足している・やや不足している)(事業者調査)	72.4%		減少

(5) 介護サービスの適正化

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・介護給付等費用適正化事業（ケアプランのチェック）、介護相談員派遣事業、事業者への実施指導を行った。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き、介護給付適正化計画に沿った事業を実施する。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
介護給付適正化計画の策定	第4期計画	第4期計画	第5期計画	第5期計画
ケアプランチェック詳細チェック(件)	25	28	3	24
実地指導事業所数(箇所)	10	3	7	8

(6) 事業所と連携した災害・感染症への備え

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・実地指導の際に防災計画や感染対策等の状況確認とアドバイスを行った。（高齢者支援課）
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で総合防災訓練内での連携は行えていないが、担当者間の緊急連絡先を交換した。（安全安心課）
- ・感染対策として町備蓄資材を備蓄した。（安全安心課）

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・事業者と連携した防災訓練を検討する。（安全安心課）

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
事業所と関連した災害対策	実施	実施	実施	継続
事業所と関連した感染症対策	実施	実施	実施	継続

重点１ 地域包括ケアシステムの深化と推進

（１）安心して暮らすための体制づくり

【できたこと（主なもの）】（☆：第８期からの事業）

- ・東郷町内の地域課題についての検討のため、地域ケア推進会議を対面とWebのハイブリット開催し、専門職や住民代表等の保健・医療・福祉等の関係者で東郷町内の地域課題について、検討した。
- ・東郷町在宅医療・介護連携推進部会を開催し、数値的データ及び現場で感じている感覚を委員から聞き取った結果から、東郷町在宅医療・介護連携の現状と「強み」「弱み」「課題」を整理し、部会員内での意識を共有するとともに「日常の療養支援」を中心に検討した。
- ・庁内連携の強化として、定期的な保健・医療・福祉等の関係者による情報交換、各部署で行っている施策に対する情報共有。意見交換（高齢者支援課）。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施において、企画調整担当の専任保健師を配置し、高齢者支援課、健康推進課と連携し、一体化連携会議の開催、事業対象者の抽出、健康教育や教室運営を行った（保険医療課）。庁内連携会議を通して課間で連携できる事業について検討した（健康推進課）。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続きの地域ケア推進会議を開催する。
- ・在宅医療介護に関して住民への周知が不足している現状から、地域ケア推進会議在宅医療・介護推進部会を開催し、住民に在宅医療介護について周知する方法を検討する。
- ・引き続き、定期的な保健・医療・福祉等の関係者と情報交換を行う。
- ・歯周病検診や骨粗しょう症検診、オーラルフレイル教室の周知で健康推進課と保険医療課と連携する。

■指標目標の進捗

目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和5年度目標
地域ケア推進会議開催回数(回)	4	4	4	4
庁内連携のための会議開催回数(回)	7	2	3	7

(2) 地域包括支援センター機能の充実

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・高齢者の総合的な相談や支援の充実を図るために東郷町社会福祉協議会と愛知県厚生事業団に地域包括支援センター業務を委託し、専門職による相談・支援を行った。
- ・地域包括支援センターの周知啓発をするため、町内調剤薬局や郵便局に地域包括支援センターの名刺を設置。令和3年度には、愛知警察署に地域包括支援センターの名刺を設置。設置させてもらった施設関係者に気になる高齢者等がいた場合は、地域包括支援センターに随時情報提供してもらうよう依頼し、連携体制を整えた。
- ・各圏域の地域包括支援センターの連携を強化するための定例会を毎月開催。よりきめ細やかな支援を行うため、定例会を通じて、課題を共有・検討し、地域包括支援センター職員の能力向上を図った。
- ・北部地域包括支援センターの保健師・社会福祉士・主任介護支援相談員等の人員を確保。南部地域包括支援センターでは主任介護支援相談員について求人募集をしたが応募者がおらず、常勤換算で0.6人分の非常勤職員のみとなり、一部確保できなかった。
- ・地域包括支援センター運営協議会にて定期的に地域包括支援センターが担う各事業の進捗評価を実施した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き通いの場などで、地域包括支援センターを周知啓発する。医療機関、町内商業施設、スーパー、コンビニなどを訪問し、連携体制を整える。
- ・人員募集の際は、町の広報紙に募集記事を載せるなど人員確保のための協力をしていく。
- ・引き続き、地域包括支援センターが担う各事業の進捗評価を行う。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和4 年度	目標
地域包括支援センターを知っている人の割合 (一般高齢者調査)	36.3%		増加

重点２ 認知症への正しい理解と早期対応

（１）認知症の正しい理解の促進

【できたこと（主なもの）】（☆：第８期からの事業）

- ・令和３年度のアルツハイマー月間では、パネル展示を庁舎内ロビー及びワクチン接種会場にて行い、認知症啓発動画を放映した。図書館では認知症関連図書特設コーナーを設置。町広報紙での特集記事の掲載。町内商業施設にある町プロモーション施設で認知症を知ろう展を開催した。
- ・認知症本人やその家族の交流や相談の場として、地域のカフェや介護保険事業所にて平日及び休日に認知症カフェを開催した。
- ・認知症ケアパスを多職種が集まる場で説明・配布し、医療介護関係者への普及に努めた。また、アルツハイマー月間等で住民等へ配布するとともに、掲載内容を更新した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き、認知症の正しい理解を深めるため、また、認知症当事者の目線に立った情報を提供できるよう周知内容及び周知方法を更に検討。
- ・認知症カフェ等の目的やあり方について、認知症地域支援推進委員を始めとする関係者で検討する。
- ・認知症ケアパスについて、引き続き、多職種が集まる場で説明・配布、住民等への配布を行うとともに、２年に１回内容の見直しを行い有用なものにしていく。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
認知症カフェ・本人カフェ参加者数(人)	1,053	405	921	1,400

目標	令和元 年度	令和4 年度	目標
認知症に関する相談窓口を知っていますか (一般高齢者調査)	26.2%		増加

(2) 認知症の早期診断・早期対応に向けた体制整備

【できたこと（主なもの）】（☆：第8期からの事業）

- ・認知症が疑われる高齢者に対して早期に関わり、支援につなげるための活動として、チーム員会議の開催や実施に訪問を行い適切な機関へ繋げ、支援に繋がった。
- ・認知症地域支援推進員を町内に2名配置し、認知症支援に特化した相談等の支援や家庭訪問を実施した。
- ・認知症支援チーム「チームオレンジ」として、既存の地区の体操教室にてチームを発足した。

【今後に向けた課題等（主なもの）】

- ・引き続き、認知症が疑われる高齢者に対して早期に関わり、支援につなげる活動に努めるほか、認知症地域支援推進員の配置の推進する。
- ・地域での認知症サポーター養成講座及び認知症サポーターステップアップ講座を実施し、地域住民が認知症の知識を持ち、認知症になっても今までの暮らしを続けられるように支援する。

■指標目標の進捗

目標	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度	令和5年 度目標
認知症初期集中支援チームの支援人数(人)	6	3	3	12
認知症地域支援推進員による認知症窓口の周知啓発(回)	50	54	53	60
チームオレンジ(地域ごとの支援チーム)の設置数(チーム)	—	—	1	2